



慶昌院本堂・秋葉堂



今村城堀跡

歴史文化基本構想推進事業 瀬戸の魅力再発見 **せと 歴史と文化財を知る見学会**
「まちめぐり 今村地区」

日時：平成29年9月16日(土)

見学コース：①午前10時00分	②午後1時30分	慶昌院駐車場集合
(予定時間)	10時05分	1時35分 慶昌院
	10時30分	2時00分 今村瀬戸道(市場町会館)
	10時50分	2時20分 今村郷倉
	11時10分	2時40分 八王子神社
	11時25分	2時55分 今村城跡
	11時40分	3時10分 伊藤九郎左衛門貞則碑ほか
	12時00分	3時30分 慶昌院駐車場・解散

瀬戸市域の主な指定・登録文化財

やきもの生産の変遷

今回見学する文化財とその関連年表

本地大塚古墳(西本地町2丁目)

宮地古墳(上之山町2丁目)

広久手第30号窯跡
 木造十一面観音菩薩立像(下半田川町) 県
 木造阿弥陀如来立像(下半田川町) 県

古瀬戸瓶子(寺本町)

陶製狛犬(深川町) 国

瀬戸窯跡【小長曾窯跡】(東白坂町) 国
 永享年銘梵鐘
 聖徳太子絵伝(塩草町)

定光寺本堂(定光寺町) 国
 織田信長制札(窯町)
 菱野郷倉『大般若経』[一部鎌倉]
 瀬戸窯跡【瓶子窯跡】(夙山町) 国
 源敬公廟(定光寺町) 国
 笠原村・両半田川村国境争論絵図(東松山町)
 石造地藏菩薩立像(片草町)

陶質十六羅漢塑像(寺本町)
 六角陶碑(藤四郎町)

旧山繁商店(仲切町・深川町) 国登
 瀬戸永泉教会礼拝堂建造(杉塚町) 国登
 陶製梵鐘(深川町)

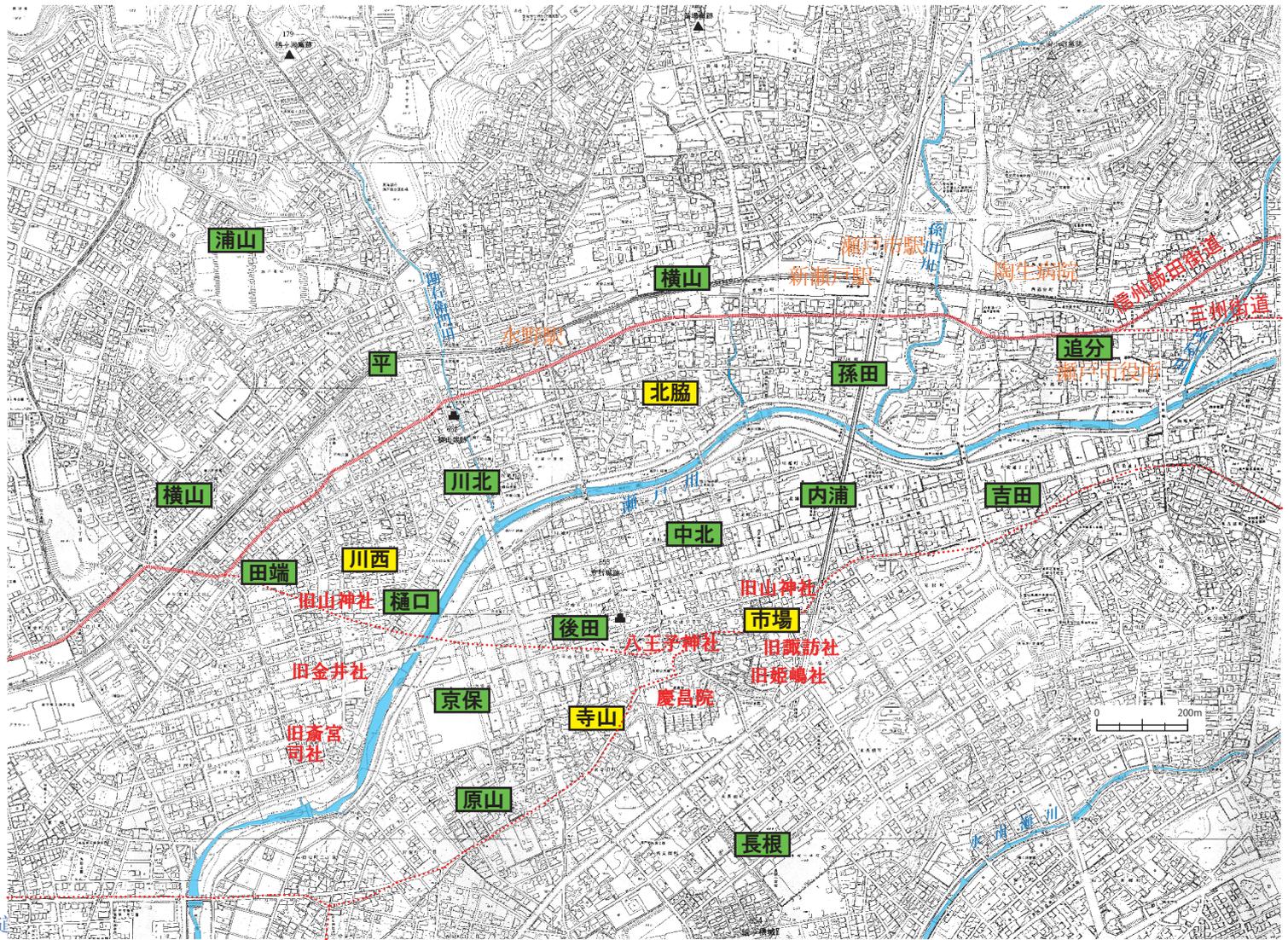
古墳	5世紀	須恵器
	6世紀	
飛鳥	7世紀	須恵器・
	8世紀	
奈良	9世紀	灰釉陶器
	10世紀	
平安	11世紀	山茶碗・
	12世紀	
鎌倉	13世紀	古瀬戸
	14世紀	
南北朝	15世紀	大窯製品
	16世紀	
室町	17世紀	連房製品
	18世紀	
戦国	19世紀	
	20世紀	
安土・桃山	21世紀	
江戸		
近代	(明治)	
	(大正)	
	(昭和)	

松原広長が今村城築城、慶昌院・八王子神社創建
 品野の長江(永井) 民部と松原広長が大槇山・安戸阪で合戦
 →品野勢が勝利し松原広長戦死

織田信長制札(加藤新右衛門家伝世)

慶昌院中興開山

伊藤九郎左衛門貞則碑建碑
 慶昌院秋葉堂建造



旧今村域のシマ・小字

(瀬戸市教育委員会 1997『瀬戸市詳細遺跡地図』に、飯田淳史 2001「今村」『瀬戸市民俗調査報告書一 幡山・今村地区』のシマ(黄色)、
『明治十五年愛知郡町村名調』記載の小字(2005『瀬戸市史 資料編3 原始・古代・中世』所収)(緑色)を加筆して作成)

今村関連年表

	慶昌院関連
	伊藤九郎左衛門関連(棒の手等)
	行政単位関連

【室町・戦国・安土桃山時代】

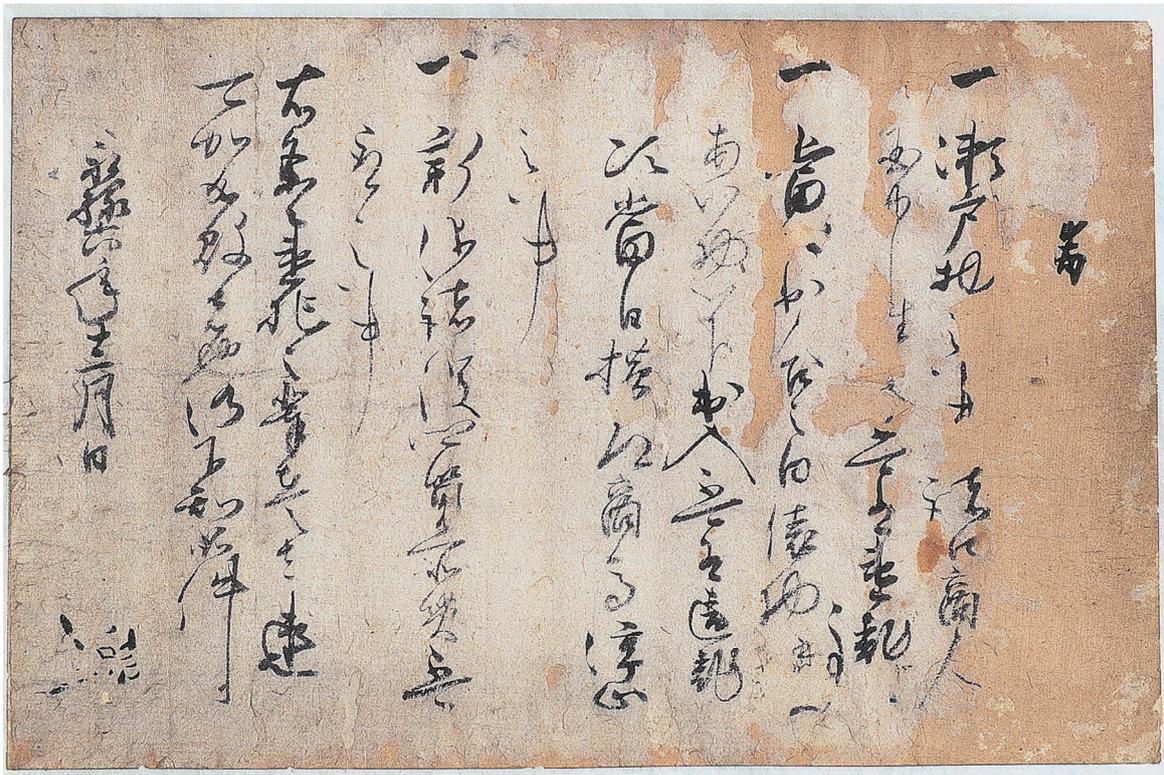
- 1402(応永 9) 「^{あかづかない}飽津金井今村」の国衙領の給人に「^{こくが}津田中務」の名(『^{きゅうじん}醍醐寺文書』)
- 1403(応永 10) 同上給人に「津田金吾」の名(『^{つ だ なかつかさ}醍醐寺文書』)
- 同上頃 「セとの村今村」の知行者に「よこ山の松原」の名(『^{だいご}醍醐寺文書』)
- 15世紀頃か 碧海郡今村古城の項に「^{きちのじょう}松原吉之丞後名一学、息男下総守」という記載(元文5年(1740年)『三河国二葉松』下巻)
- 1464(寛正 5) 松原広長が赤津万徳寺に聖徳太子伝・絵伝および田畠を寄進
- 1473(文明 5) 今村八王子神社上棟の大檀那に「^{松原下総守源広長}松原下総守源広長」の名(未確認棟札の記載)
松原広長が今村城築城時に八王子大明神・薬師如来を勧請し自ら別当職を兼務して**医王山八王寺(天台宗)を開創**(慶昌院での寺伝)
- 1482(文明 14) 今村の松原広長と品野の長江(永井)民部が^{ながえ}大槇山・^{ながい}安戸坂で合戦
^{みんぶ}品野勢が勝利し松原広長戦死→広長の首は万徳寺に弔われる(松原塚)
- 1563(永禄 6) 織田信長制札(下品野の加藤新右衛門家に伝世)

【江戸時代】

- 1628(寛永5) 孝岳慶須が八王寺の中興開基となり本尊を釈迦如来とする(『尾張雲興寺史』)
- 1631(寛永8) 雲興寺15世興南義繁が八王寺を慶昌院とし曹洞宗寺院に帰属させ開山(慶昌院での寺伝)
- 1680(延宝8) 八王子神社棟札(他に文政10(1827)年、寛政2(1790)年ほかの棟札もあり)
(八王子社蔵)
- 1688(貞享5) オオクワ祭り神事使用鍬記載の記念銘
- 1748(寛延元) 慶昌院の本堂・開山堂・庫裡等諸堂宇の再建(現在の本堂は昭和25年改築)
- 1766(明和3) 「伊藤九郎左衛門貞則碑」建造
- 1769(明和6) 八王子神社本殿前石燈籠建造
- 1772-81(安永年間) 北脇観音山から慶昌院に観音堂遷座(本尊は十一面観音菩薩)(『北脇夏祭りの菜』)
- 1800(寛政12) 市場町常夜燈(P4画像の市場町会館前)建造
- 1802(享和2) 「奉獻地神荒神横山仁蹟」碑建造(横山城故地から慶昌院境内へ移設)
- 1805(文化3) 「横山幸右衛門重利碑」建造
- 1827(文政10) 慶昌院現祖堂(前観音堂)の建造(建物梁文より)
- 1898(慶応4) 大川(瀬戸川)の洪水(堤・用水絵図下書)(『今村郷倉文書』)

【近代】

- 明治初年 遠州秋葉山秋葉寺より慶昌院に大権現を勧請(現在の秋葉総本殿は昭和47年改築)
- 1873(明治6) 效範学校が今村・美濃池村・狩宿村・瀬戸川村・井田村の5ヶ村共立で設立される(1876年に今村学校と改称される)
- 1877(明治10) 「尾張国第三区春日井郡今村地図」測
- 1880(明治13) 横山「勝法先生之碑」建造
- 1884(明治17) 戸長役場区域変更により今村・美濃池村・三郷村・稲葉村が第28組としてまとめられる(1889年に八白村となり、1906年に印場村・新居村とともに旭村となる)
- 1910(明治43) 西山神社・斎宮司社・東山神社・諏訪社・姫嶋社の氏子総代が
郡役所へ八王子神社への合祀を出願
- 1911(明治44) 有限責任今村信用購買組合設立
→1942年に他の4組合(赤津・瀬戸町東部・同北部・同南部)と合併し
1951年に瀬戸信用金庫となる
- 1925(大正14) 瀬戸川の氾濫(8月24日)→八間道路等の敷設整備へ
同 旧今村・旧美濃池村・赤津村が瀬戸町に合併(8月26日)
- 1930(昭和5) 效範尋常小学校が移転(現在の效範町1丁目1番地へ)
- 1931(昭和6) 八王子神社本殿・参集殿の改築(『今村郷倉文書』)



織田信長制札 (永禄 6(1563) 年) (加藤新右衛門家蔵) 【市指定】



今村瀬戸道と市場町会館

制 札 瀬 戸

一、瀬戸物之事、諸郷商人
 國中往^レ返不可有違乱^レ事
 一、当郷出合之白俵物并^レ鹽
 あい物以下、出入不可有違乱、
 次当日横道商馬停止
 之事
 一、新儀諸役、郷質・所質
 不可取之事
 右条々違犯之輩在之者、速
 可加成敗者也、仍下知如件

永禄六年十二月日 (花押)

① 慶昌院 (1473(文明5)・1631(寛永8)～)



慶昌院 (左：秋葉総本殿(秋葉堂)(昭和47年再建)
右：本堂(昭和25年再建))



慶昌院 祖堂 (旧観音堂
(文政10(1827)年建造か))

文明5(1473)年に、赤津・瀬戸に勢力をもつ松原広長が今村城を築城する際に、城域守護のために八王子大明神・薬師如来を勧請し医王山八王寺を開創したとされます。この八王寺が、医王山慶昌院の草創であったとされますが、その後、無住寺となっていました。寛永8(1631)年に雲興寺15世興南義繁が曹洞宗慶昌院となし中興開山となりました。安永年間(1772-81)に観音堂を北脇から遷座、明治初年には、静岡県秋葉寺より秋葉三尺坊大権現を勧請し、秋葉堂を本堂西側に建造しています。

昭和56年に旧庫裡の一角を清掃していた際に右の木像が発見されました。その制作年代等は不明な

が、当寺に関連する尊像は松原広長以外に考えがたいことから、広長の尊像とみなされ、以降位牌堂に新たに作成した位牌とともに大切に保管されています。

秋葉堂では、11月第3日曜日(かつては12月16日)に火渡りを伴う秋葉大祭が行われます。檀家のみならず窠屋を中心に瀬戸一円からの人出で賑わいます。



松原広長とされる木像

② 今村郷倉 (江戸～)

江戸時代に年貢米を一時保管する備蓄用の倉が作られたものが始まりとされ、今村にも2間×2間の倉が1棟、今日まで使われています。平成2年に271点の文書が瀬戸市歴史民俗資料館に寄贈されました。宝暦2(1752)年の田畑名寄帳を最古として近世・近現代の村関係の文書類で構成されています。近世は、用水管理に関する資料や田畑名寄帳などが多く、江戸後期の猿投山祭礼に参加した折の支出票などもみられます。近現代は、土地や地租に関する資料や学校関係の資料が多く、八白村からの分



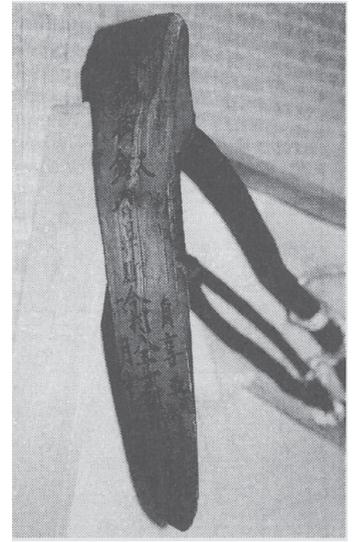
今村郷倉



第三中学区内五十九番效範学校画図
(明治6～9(1873-76)年の間か)



猿投山馬本掛り帳
(天保14(1843)年)



オオクワ祭りに使用された鍬(貞享5(1688)年銘)

村願や濃尾地震に関する資料などもあります。

また、今村の神事で用いられる道具類も保管されています。旧暦の7月11日に近い日曜日にオオクワサマ(オオクワ祭り)の神事が行われています。虫送りとともに行われた五穀豊穰・家内安全の祭りです。昭和30年ころまでは、毎年八王子社で神事が行われた後、木鍬と御幣をつけた青笹竹を持ち、太鼓を叩きながら「オオクワサマのオクリヨウ、一束タバで五斗八升、あとはオカカのマツバリ(註：へそくり)ヨウ」と囃し、かつての畔道であった共栄通辺り～瀬戸川堤～根の鼻～共栄橋をまわりました。

③ 八王子神社 (1473(文明5)～)

創建年については、今村城築城時とされ、「文明五年癸巳年九月初五日大檀那松原下総守広長」と書かれた棟札があったとされますが、現在その存在は不明です。

本殿や拝殿は、遷宮がなされるために定期的に修築がなされ、その際の棟札もいくらか残っています。最も古いものは延宝8(1680)年のもので、宝永5(1708)年、正徳3(1713)年、享保7(1722)年、寛政2(1790)年、文政10(1827)年、慶応3(1867)年のものが確認されるようです(1979『郷土誌だより いまむら』No.1)。最後の大規模改修は昭和6(1931)年の本殿・参集殿の改築でした(『今村郷倉文書』No.711)。



八王子社 拝殿・本殿(昭和6年改築)



今村の献馬(鈴木信義氏提供)

④ 今村城跡（1473(文明5)～)

今村城は別名「松原城」とも称され、その規模は明治年間の地籍図などから、東西50間(90m)、南北60間(108m)で、四方に幅5間(9m)一重の堀を巡らせ、南側のみ二重の堀とし、土塁の高さは2丈(6m)の城構えであったことが推定されています。

そもそも本城の周辺は、かつて江戸時代には春日井郡今村の村域であり、この地名は三河国碧南郡今村(現安城市)において城を構えていた松原氏が、寛正年間(1461～1466)に現在城跡がある場所に移った際に改名されたと伝えられています。当地に城を移したのは、松原吉乃丞(一学)とする説と、その子、広長とする説がありますが、いずれにしても広長の代では、品野の桑下城主長江利景(永井民部)とならび、瀬戸地域における2大勢力となっていました。応仁・文明の乱の際には、広長は山名派に、利景は細川派につき争っていますが、一説には今村勢は文明14年(1482)、今村・赤津・山口・本地・稲葉・志田見の兵を勢呼の山(現効範小学校周辺)に集め、品野の大槓山で待ち構える長江勢と合戦となっています。そこで劣勢となった今村勢は安土(安戸)坂まで後退して陣を張りましたが敗戦となり、最終的に広長は岩狭ヶ洞(名鉄「瀬戸市役所前」駅周辺)にて、叔父であり、本地城主である松原平内と共に自刃したといわれています。今村城落城後、一族は赤津に逃れ農民として暮らしたと伝えられ、赤津



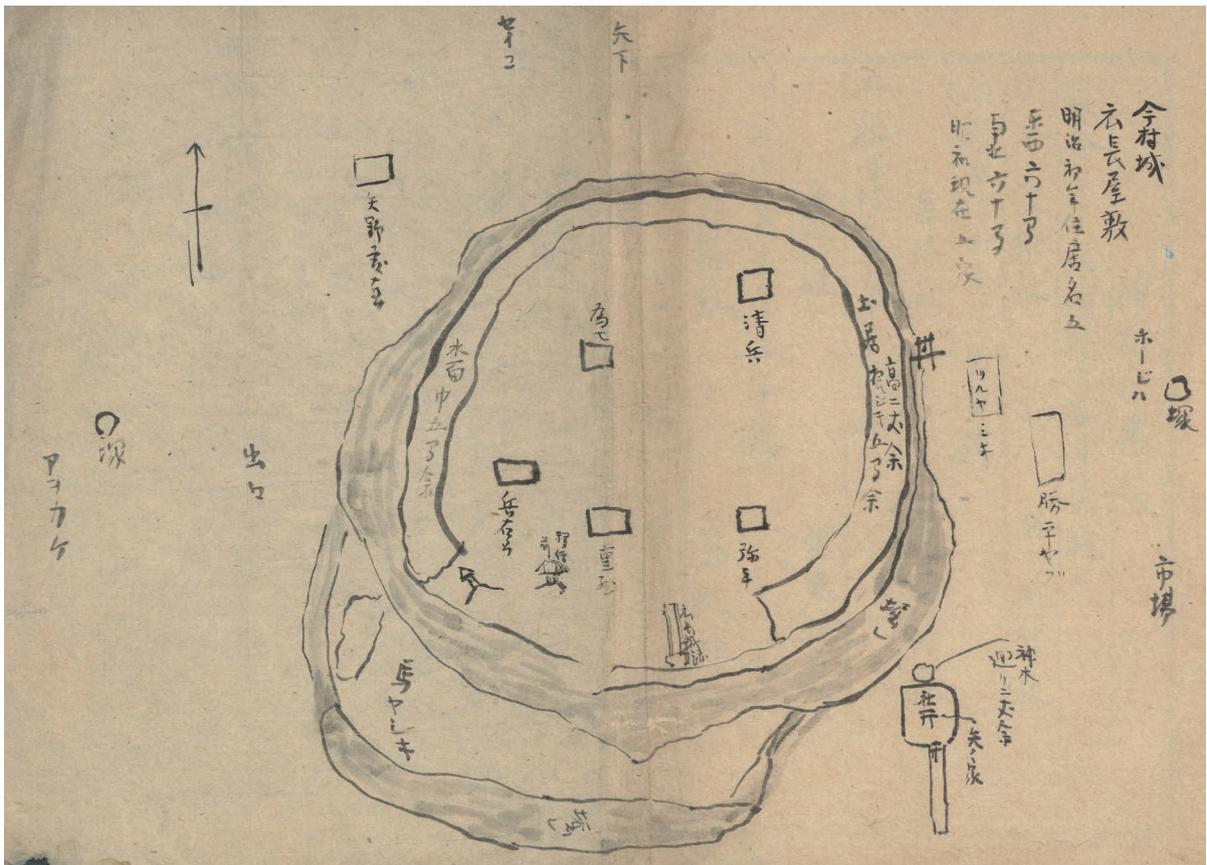
八王子神社境内 今村城堀跡



松原広長が赤津万徳寺に寄贈した『聖徳太子絵伝』【市指定】

の万徳寺には生前広長が寄贈した『聖徳太子絵伝』『聖徳太子伝暦』が残され、広長の首が祀られた松原塚が大切にされています。

さて、明治年間の今村城絵図をみると、かつて城内であった場所には「明治初年住居名五」とあるように、5つの建物が描かれており、「堀」や「土居(土塁)」も残されていたことが記されています。現在は市街地化がすすみ、その面影をみることはできませんが、城の南西に位置する八王子神社の境内には、今村城の堀の一部が残されています。また、明治年間の今村城切絵図と現在の地図を重ね合わせると、瀬戸街道を北限として、八王子神社の北辺付近までが城域であったと推定できます。



明治初年当時の今村城絵図 (明治43年「村社八王子社明細帳」『今村郷倉文書』No.702-1より)



明治年間今村切絵図と現況

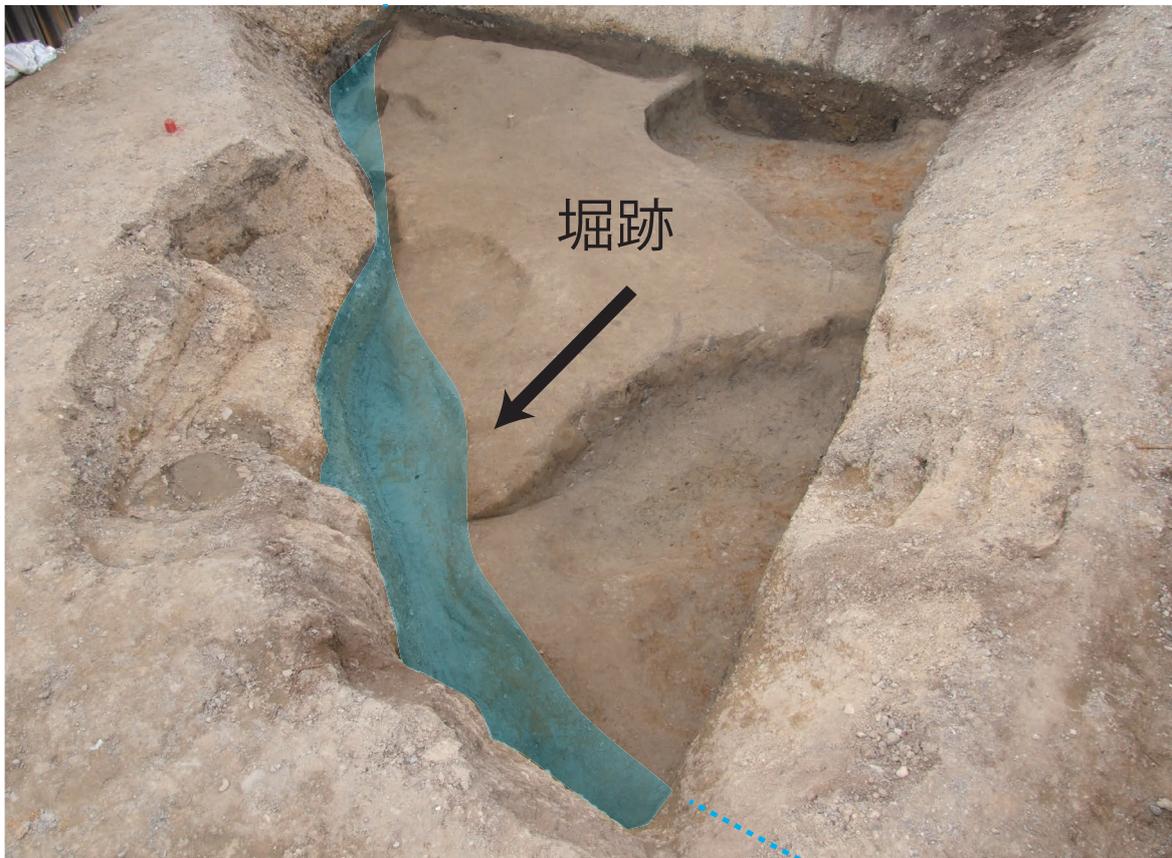


万徳寺の松原塚



広長の首が納められたとされる首塚

平成 25 年には、南側二重堀の内堀に相当する場所で、小規模ながら発掘調査が行われ、概ね予想された場所から堀の縁辺と思われる落ち込みが確認されました。残念ながら土塁は既に削られているようで、その痕跡も確認できませんでしたが、出土した遺物の中には、年代的に広長が今村城を居城としていた当時に使用されたと考えられる古瀬戸製品や、煤の付着した土師器の皿などが出土しています。屋敷の跡はみつかりませんが、発掘調査が行われた地点よりもさらに北側には、広長が居住したであろう屋敷があり、将来その場所を特定できる機会もあるかもしれません。



発掘調査で確認された堀の一部
(南西から撮影)

⑤ 伊藤九郎左衛門貞則碑 (明和 3(1766)年) ほか

慶昌院の敷地で、駐車場から西側に道路を挟んだ一角に、石碑が多く建てられた尾根先端の高まりがあります。明治10年測の地籍図には「庚申」と書かれ、庚申講等が行われた場所であることがわかります。尾根の上には御嶽信仰の石碑群、東側斜面には旧八白村関連や日清・日露戦争戦死者の忠魂碑等が建てられています。



伊藤九郎左衛門貞則碑 (左から1番目)
・横山幸右衛門重利碑 (同2番目) ・勝法先生之碑 (同3番目)

尾根の北東向き斜面には、今村で剣術・兵法の師であった伊藤九郎左衛門貞則を顕彰して明和3(1766)年に建てられた碑があります。硬質砂岩製の方柱状の石碑で花崗岩の台石も含め138cmの高さです。碑文にあるように、今村に育った貞則は、自らは高縄石清流の極意である剣術(小太刀居物)の免許授け主である中で、平野平八郎を師として棒の極意技を主とした検藤流と藤牧沙門を始祖とする真剣早物を奥義とする藤牧流を学び新たな一流派を生み出した(1993『愛知の馬の塔と棒の手沿革誌』)とされます。



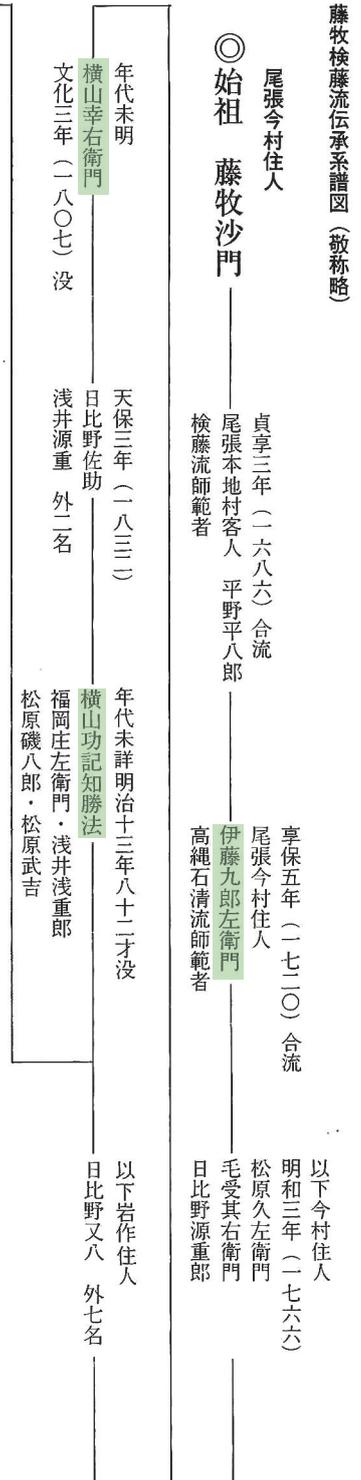
伊藤九郎左衛門貞則碑

この石碑の傍らには、伊藤貞則に学んだ横山幸右衛門重利の碑(文化3(1805)年造)、その流派の横山幸吉(功記知)(諱は勝法)の碑(明治13(1880)年造)が並び建ち、今日、長久手市長湫地区・岩作地区、豊田市篠原、同旭地区杉本・下小屋等に伝わる棒の手の源流がここ今村であったことがうかがわれます。

大日本国東海道尾張州春日井郡山田庄今邑伊藤九郎左衛門貞則者当郷先祖代々孫也此人平野平八郎於為劍術兵法之師其流也檢藤藤牧之二流也矣聰而多年朝暮師之提示不得倦此功既就而亦師子之礼有一千餘人此中密々口伝之者得二百餘人師子無隱笑顏有餘今春生年八十末後仲供養 唯翼國家安穩万民長久
厥銘曰 幾歲携劍教訓人 千餘門弟一時新
功無功処隱身去 誉拳扶桑万国春
願主 伊藤九郎左衛門貞則
時明和三年丙戌孟春日
同門弟中

伊藤九郎左衛門貞則碑 表面

〔尾張地方〕



藤牧検藤流系統図 (始祖から8代まで)
(1993『愛知の馬の塔と棒の手沿革誌』より)

今後のスケジュール

<11月>

せと歴！ 3つの登録文化財を巡る見学バスツアー

日時：11月23日（木・祝） 午前の部：午前9時30分～正午

午後の部：午後1時30分～午後4時

集合・解散場所：名鉄尾張瀬戸駅前/パルティセと南口

内容：登録文化財である雲興寺鐘楼、瀬戸永泉教会礼拝堂、旧山繁商店を見学します。

参加費：無料

定員：各部50人

※申し込み方法等、詳しくは広報せと11月1日号に掲載します。

瀬戸市歴史文化基本構想ホームページ

昨年度、策定した瀬戸市歴史文化基本構想や基本構想に関連した取り組みをホームページにて掲載しています。

これまでに開催した「まちめぐり」や「学び塾」の様子を紹介するとともに、「まちめぐり」の資料をダウンロードすることができます。

アドレス：<http://seto-cul.jp/rekibun/>

ぜひ、ご覧ください。



本事業は、平成29年度歴史文化基本構想を活用した観光拠点づくり事業（文化芸術進行費補助金）を活用して実施しています。